■柳田国男　　**民俗学者。農政学者として挫折後，僻地の伝承に魅惑され，研究会を組織，独自の民俗学を開いた。**
やなぎたくにお
初の民間工場1875＝　　兵庫県神東郡田原村辻川(神崎郡福崎町辻川)で，在村漢学者松岡操の六男に生まれる。**_兄弟はすべて各分野で一流になるという家系。**

琉球処分・・1879＝ 4歳：長兄が校長をしていた辻川の昌文小学校に入学。

明治14年政変1881＝ 6歳：

秩父事件・・1884**＝ 9歳：**
内閣発足・・1885＝10歳：高等小学校卒業。辻川の旧家三木家に預けられ，和漢の蔵書を濫読。この頃，悲劇的な飢饉を体験。

国民之友始・1887＝12歳：関東に出，茨城県の長兄のもとに住み，
病身のため学校に行かずに長兄の知人小川家で第2の濫読時代を過す。
帝国憲法発布1889＝14歳：
帝国議会始・1890＝15歳：さらに東京に出る。

早くから和歌を作っていたが，
郡司千島探検1893**＝18歳：**兄たちの援助により第一高等中学校に入学すると，歌人松浦萩坪(辰男)に入門し，田山花袋を識る。
日清戦争始・1894＝19歳：
日清戦争終・1895＝20歳：新体詩を作るようになり，{文学界}に作品を発表。恋人の死に続いて，
白馬会・・・1896＝21歳：両親が相次いで死去。花袋に加え，島崎藤村，国木田独歩らと知り合い，親しく交流するようになる。
八幡製鉄始・1897＝22歳：仲間とともに詩集「抒情詩」を刊行。卒業して，**_東京帝国大学法科大学政治科に入学，農政学を専攻。**
彼の新体詩の多くは恋愛詩であり，ロマン主義的傾向の強いものであったが，同時にしばしば現実の世をいとい，死後の世界や異なる世界をあこがれる感情がうたわれていることも注目される。
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝25歳：**_卒業後，農商務省に入り，同時に早稲田大学で"農政学"の講義を担当した。**
田中正造直訴1901＝26歳：**_信州飯田藩出身の大審院判事柳田直平の養嗣子として入籍し柳田姓となる。自然主義文学の潮流が強まり，仲間がその方向に進むにつれ，詩作から遠ざかり，自然主義文学には批判的態度をとりつづけた。**
教科書疑獄・1902**＝27歳：_法制局参事官になる。**
日露戦争始・1904＝29歳：結婚。
日露戦争終・1905＝30歳：
_10年ほどの間に農業問題や農業政策について多くの文章を発表したが，彼の主張や提案はほとんど受け入れられることなく，農政学者としては挫折。
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝33歳：**_九州へ旅行し，各地の山間奥地まで訪れ，"数百年前の面影"や"純日本の思想を有する人民"を発見した。とくに宮崎県の椎葉村で古い狩猟方法を聞き感動。また，岩手県遠野出身の佐々木喜善から遠野地方に伝承されるさまざまなふしぎな話を聞き，魅惑され，**
伊藤博文暗殺1909＝34歳：長女が誕生。**_初めて遠野を訪れる。前年の二つの体験を「後狩詞記」，**
韓国併合・・1910＝35歳：内閣書記官記録課長になる。**＊「遠野物語」の2書にまとめ，民俗学の研究に踏み込むこととなった。**
大逆事件判決1911**＝36歳：**この年から南方熊楠と交流，
明治天皇没・1912＝37歳：
大正政変・・1913＝38歳：**＊高木敏雄と雑誌{郷土研究}を創刊，**
第一次大戦始1914＝39歳：貴族院書記官長となる。**_一人で編集に当り，多くの論文を発表するが，**
21ヶ条要求・1915＝40歳：長男誕生。
ﾛｼｱ革命・1917＝42歳：**_休刊となる。**
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝44歳：**_貴族院議長らと対立して辞任，官僚生活と決別し，**
大暴落・・・1920**＝45歳：_<白虹事件>によって人材多数を失った朝日新聞社に招かれて入社。各地を旅して紀行文を連載。**
原敬首相暗殺1921＝46歳：国際連盟委任統治委員になる。**_自宅で民俗学の談話会を開始。**

護憲三派圧勝1924＝49歳：国際連盟委任統治委員を辞任。**_論説担当となり，7年間社説を執筆。**
治安維持法・1925＝50歳：**_雑誌{民族}を刊行。**
円本時代始・1926＝51歳：この年をもって，南方熊楠との交流が終わる。
_この間，従来政治的なものばかりだった新聞社説に文化的視点を導入，社会問題を覗き見から脱しめ，さらに自らの著作集に収録することで，匿名性をも打破する。
世界恐慌・・1929**＝54歳：**
海軍軍縮条約1930＝55歳：**_朝日新聞論説委員辞任後は民俗学の研究と後進の指導にあたりつつ，多くの著書・論文を発表する。**
満州事変・・1931＝56歳：「日本農民史」。**_膨大な新聞切抜きからまとめたジャーナリスト視点の「明治大正史・世相篇」。**
五一五事件・1932＝57歳：養父母が相次いで死去。**_初期の単なる調査に近いものや山人などへの偏った関心を脱し，学問として体系し，民俗学をを確立しようとして，方法論の整備に努力し，研究会{木曜会}を開催する。その成果は，**
帝人疑獄事件1934＝59歳：**_「民間伝承論」，**
芥川直木賞始1935＝60歳：**＊「国史と民俗学」や「郷土生活の研究法」に示されている。また方法論に対応した信頼度の高い民俗資料を集積するため統一調査項目による全国的調査"山村調査"を実施し，さらに全国各地居住の民俗学愛好者を{民間伝承の会}に組織して，機関誌{民間伝承}を刊行。**
日中戦争始・1937＝62歳：
健保+総動員 1938**＝63歳：**
第二次大戦始1939＝64歳：衣食住の変遷をそれを享受する人々の感覚から明らかにする「木綿以前の事」，
日米開戦・・1941＝66歳：**_朝日文化賞。**

敗戦・・・・1945＝70歳：
新憲法公布・1946＝71歳：**_日本人の神の本質は祖霊であり，人はすべて死後祖霊となって，永く子孫と交流するという祖霊信仰を追求し「先祖の話」を著した。枢密顧問官に就任し熱心につとめたが，**
新憲法施行・1947**＝72歳：_枢密院が廃止となると，自宅に財団法人民俗学研究所を開く。**
三大事件・・1949＝74歳：学士院会員になる。**_{民間伝承の会}を{日本民俗学会}と改称して再発足させ，初代会長となる。**

独立回復・・1951＝76歳：国学院大学大学院で理論神道学の講座の担当開始。**_文化勲章受章。監修「民俗学辞典」で毎日出版文化賞。**

国連加盟・・1956**＝81歳：**
なべ底不況・1957＝82歳：**_NHK放送文化賞。民俗学研究所を解散し，蔵書を成城大学に委託。**
日本人の日本列島へ渡来してきたコースに最大の関心をよせ，
ｲﾀｲｲﾀｲ病始・1961＝86歳：**_南方から沖縄を経て列島に達したという主張を「海上の道」にまとめ，**
全国総合計画1962＝87歳：**_老衰で没した。**
刀水書房「20世紀の歴史家たち1」，中公シリーズ「日本の名著」，新潮日本文学アルバム，「日本史を変えた人物200人」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，「目でみる日本人物百科」，「100人の20世紀」，